

# FROM THE HIP

疲れて歩けない？それならば、すべればいいじゃない

—— by 有名な国の有名な女王

## 「road」と「street」の違い

road と street の違いについて考えてみたい。

road：車両が通行するために造られた長い舗装路

street：町や都市の中にあり、両側に建物が並んでいる道路

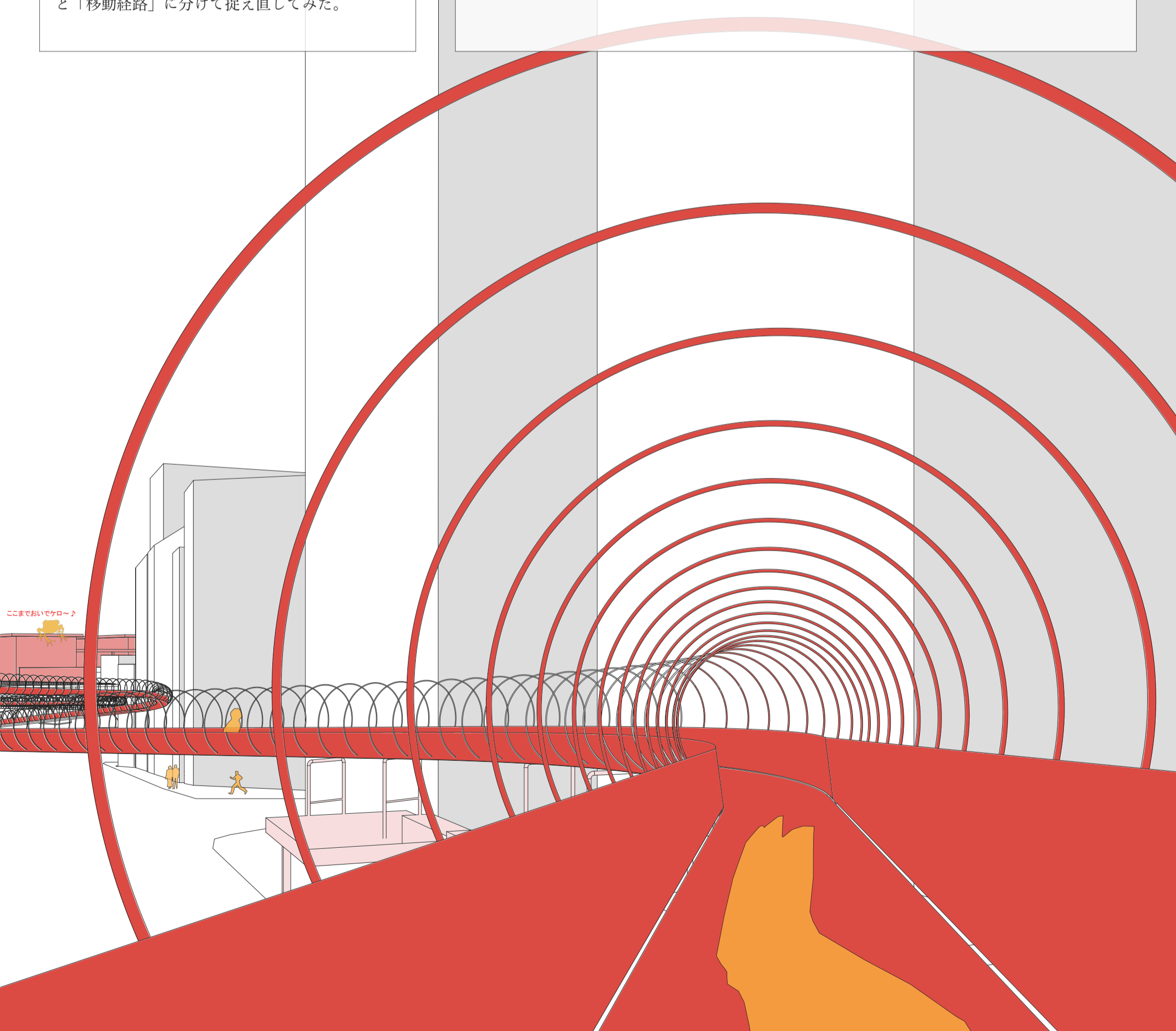
とそれぞれ定義づけられている。ミュージアムロードは現在、文字通り「road」の意味でしか人々に使われていないが、目指すべきは両側に建物が並び、人が行き交う「street」であろう。では、どうやってミュージアム「ストリート」にしていけば良いだろうか。道を「移動手段」と「移動経路」に分けて捉え直してみた。

## 提案 - すべり台という移動手段

移動手段	負荷	速度	経路
歩行	大きい	遅い	歩道のみ
自転車	小さい	速い (速すぎる?)	原則車道
すべり台	0	ちょうどよい	道路頭上のどこでも

歩行による移動は、立ち止まって店を覗いたり、少し腰掛けて休憩したりと、魅力に富んでいるが、美術館や動物園で既に十分歩き回った足は疲労も大きい。一方、自転車は坂道を気持ちよく走れるが速度が出過ぎ、目的地間の移動で終わってしまう。

そこで本計画では「すべり台」による移動を提案する。神戸の南北の高低差を利用すればほぼゼロエネルギーで足を疲れさせずに移動でき、速度も徒歩より速く自転車より穏やかである。二階・三階レベルの高さで歩道や車道をまたぎながら進む新しい軌道は、従来の移動とも異なる刺激的なミュージアム「ストリート」体験をもたらす。



ここまでおいでゼロ〜♪

# MUSEUM STREET MAP

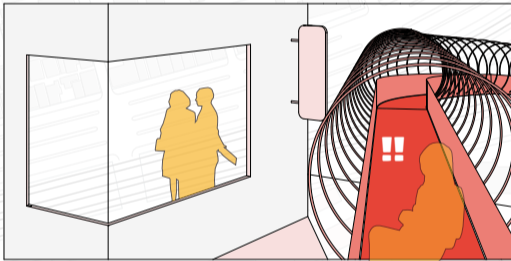
## もうひとつ行くようになる

すべり台設置の最大の利点は、「複数箇所訪問する選択肢」ができることだ。今までは王子動物園のみ、県立美術館のみで帰ってしまった来訪者が「このすべり台を滑ってみたい」という気持ちで、もう一ヶ所訪れるようになる。また、その道中にある飲食店などを訪れ休憩する可能性も高く、王子～灘エリア全体が一日楽しめるエリアになる。



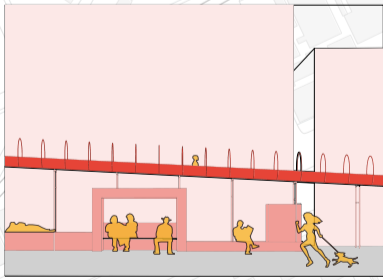
## 二階テナントの活性化

すべり台は二階レベルの高さ付近を滑るので、二階部分も一階部分と同様に集客が見込めるテナントに変貌する。一階部分だけでなく、二階部分にもテナントが入ることで、ストリートはより賑わうようになる。



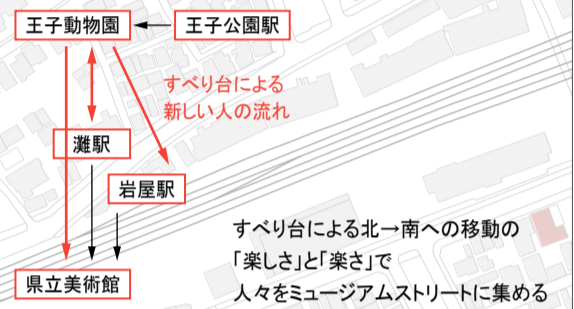
## 人がとどまるように

すべり台下にベンチを設ける。通りかかった人は、美術館や動物園を歩いて鑑賞し疲れた脚を休めつつ軽食を頬張る。平日も下校中の子どもたちや仕事合間の社会人、買い物途中の老婦人など、色々な人が腰掛ては黄昏れ、そしてまた元の生活へ戻っていく。



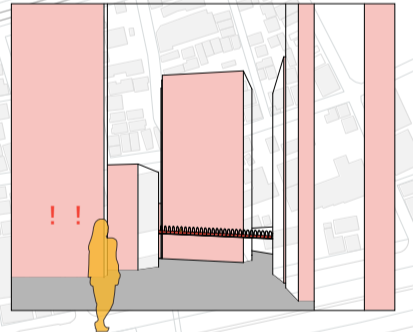
## アクセス方法の多様化

王子動物園へのアクセスは自家用車か阪急線、県立美術館へのアクセスはJRが阪神線と固定されていた。しかし、すべり台を滑るために遠回りする選択肢が笛、利用する交通手段が多様になる。



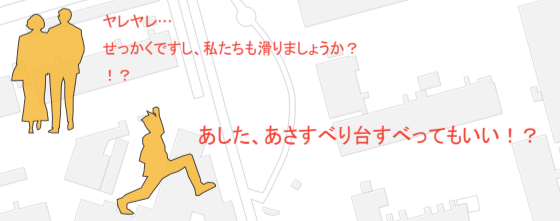
## ミュージアムストリートの顕在化

すべり台が上空を駆けめぐることによって、ミュージアムストリートの存在が顕在化する。



## 宿泊エリア化

美術館や動物園を訪れたあと三ノ宮のホテルへ…ではなく、ミュージアムストリート付近をを宿泊エリアに。ミュージアムロード沿い、水道筋商店街には飲食店が充実しており、三ノ宮よりも安い価格で泊まれる人気の宿泊エリアとなるポテンシャルを持っている。(現在、宿泊施設は1軒のみ)



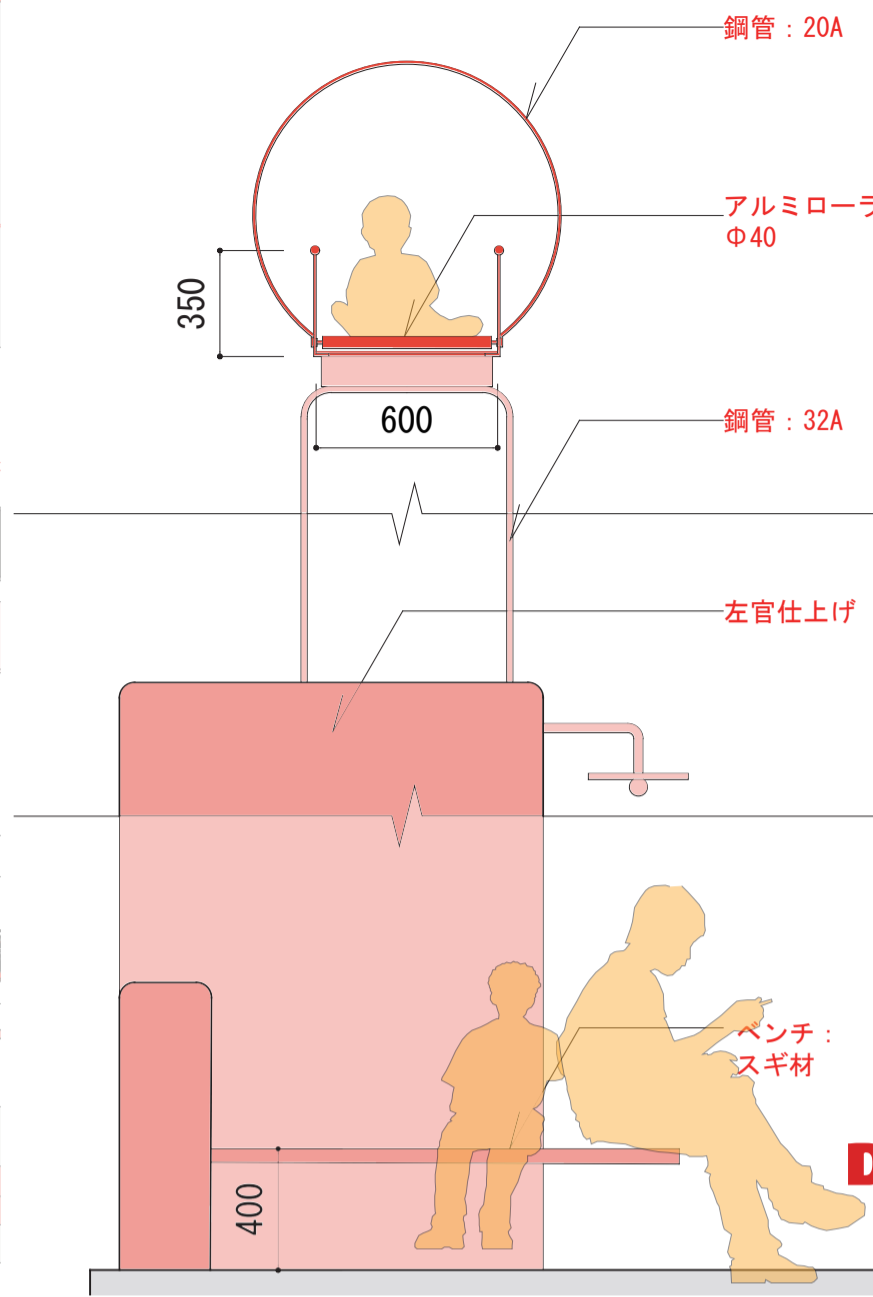
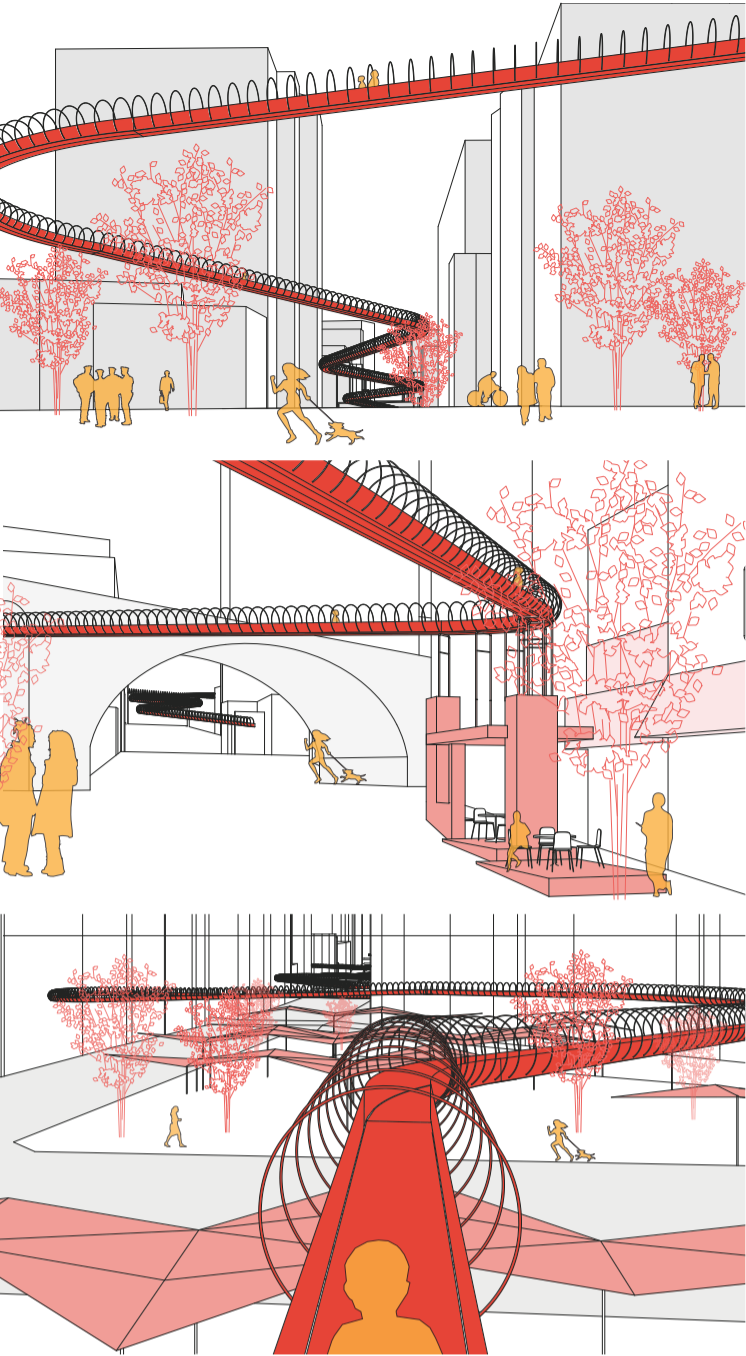
凡例

	観光施設(美術館、動物園など)		学校
	駅		飲食店
	飲食店		宿泊施設

S=1:4000

0 100 500 [m]

# STRUCTURE



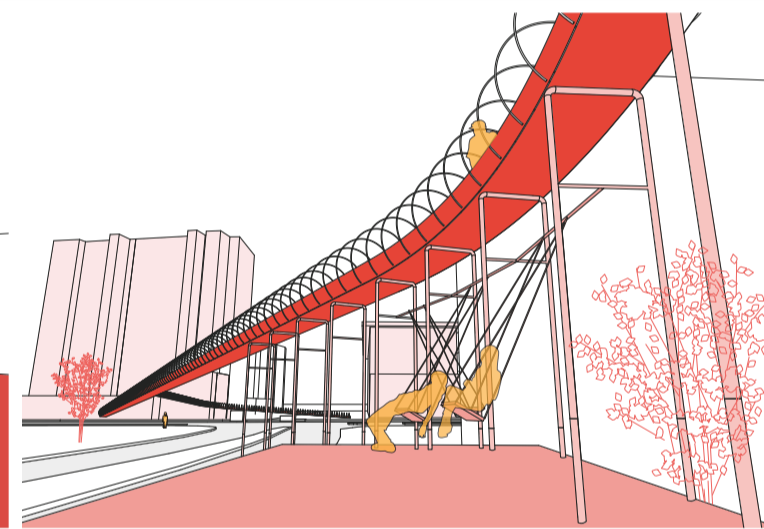
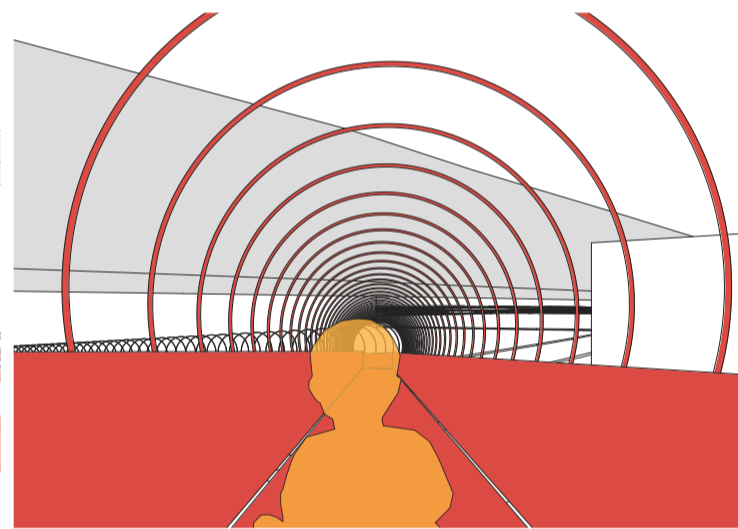
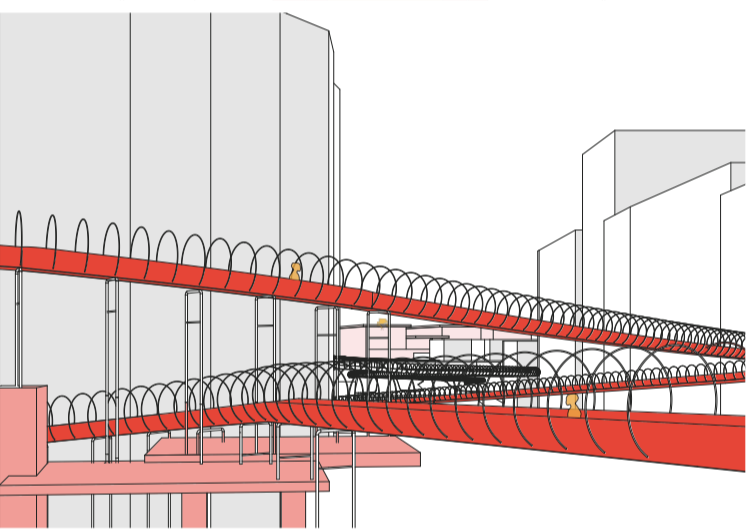
## 上部: すべり台

底面をローラー式のすべり台にし、傾斜は道路と同程度の勾配にすることで、自転車をゆっくり漕ぐときの移動速度になるように設定する。落下防止のため、円形の柵を設けた。

## 下部: ベンチや遊具

脚柱の根元部分には剛性を確保するために左官仕上げの箱状の構造体を設置。ベンチや遊具、街灯などを組みこむことによって、ミュージアムストリートの歩行者が腰掛けて、一休みする場所を生み出す。

## DETAILED SECTION S=1:20



## CONCEPTUAL SECTION S=1:75

